

⑩ よっしょい節

見附市
【歌詞の題材(風合戦)】

♪作詞：北原 白秋 (きたはらはくしゅう) ♪作曲：町田 嘉章 (まちだかしょう)

昭和4年(1929年)、北原白秋に委嘱した作品「今町風民謡」ができあがり、舞踊家花柳徳次の振り付けにより舞踊が完成しました。この発表にあたり、民謡作曲家町田嘉章の指揮で今町芸妓連が東京愛宕山(NHK)で全国放送を行いました。当時ラジオがある家は今町で10数軒しかなく、放送当日、人々はラジオのある家に集まり放送を聞いたそうです。

1. 越後今町 男の盛り ハヨッショ
 風のいくさは ヨッショイショイ
 意気でやる 意気でやる
 ハアヨッショイヨッショイヨッショイナ
2. ヨイショヨイショと矢声があがる ハヨッショ
 風は今町 ヨッショイショイ
 中之島 中之島
 ハアヨッショイヨッショイヨッショイナ
3. 風よ吹け吹け百枚張よ はづめ ハヨッショ
 晴れよ晴れよ ヨッショイショイ
 守門山 守門山
 ハアヨッショイヨッショイヨッショイナ



※以下続く

⑪ 浜千鳥

柏崎市
【作詞地】

♪作詞：鹿島 鳴秋 (かしまめいしゅう) ♪作曲：弘田 龍太郎 (ひろたりゅうたろう)



歌碑所在地 みなとまち
 海浜公園

作詞者の鹿島鳴秋は大正8年(1919年)、柏崎に住む友人を訪ねました。その際、友人らと裏浜海岸を散歩しながら手帳に書き記したのがこの作品とされています。大正9年(1920年)、弘田龍太郎によって作曲され、全国的に愛唱されるようになりました。現在、「みなとまち海浜公園」には「浜千鳥の詩碑」が建てられています。

1. 青い月夜の 濱へには
 親をさがして 鳴く鳥が
 波の国から 生まれ出る
 濡れた翼の 銀のいろ
2. 夜鳴く鳥の 悲しさは
 親をたずねて 海越えて
 月夜の国へ 消えて行く
 銀の翼の 浜千鳥



⑫ 夏は来ぬ

旧大潟町(上越市)
【作曲家出身地】

♪作詞：佐佐木 信綱 (ささきのぶつな) ♪作曲：小山 作之助 (こやまさくのすけ)



歌碑所在地 上越市立大潟町中学校
 前庭

この作品は作曲者の小山作之助が先に曲を作り、歌人の佐佐木信綱へ歌詞を付けることを依頼したとされています。「夏は来ぬ」は文語で、「夏が来た」という意味です。上越市立大潟町中学校の前庭には「夏は来ぬ」の歌碑とともに、小山作之助の胸像が建てられています。

1. 卵の花の 匂う垣根に
 時鳥 早も来鳴きて
 忍音もらす 夏は来ぬ
2. さみだれの そそく山田に
 早乙女が 裳裾ぬらして
 玉苗植うる 夏は来ぬ
3. 橋の 薫るのきばの
 窓近く 蛍飛びかい
 おこたり諫むる 夏は来ぬ
4. 棟ちる 川への宿の
 門遠く 水鶏声して
 夕月すずしき 夏は来ぬ
5. 五月やみ 蛍飛びかい
 水鶏鳴き 卵の花咲きて
 早苗植えわたす 夏は来ぬ



⑬ 春よ来い

糸魚川市
【作詞者出身地・居住地】

♪作詞：相馬 御風 (そうまぎよふう) ♪作曲：弘田 龍太郎 (ひろたりゅうたろう)



歌碑所在地 フォッサマグナムミュージアム入口
相馬御風は明治・大正・昭和にわたって活躍した文人です。明治16年(1883年)に旧糸魚川町(現:糸魚川市)に生まれました。「春よ来い」は、大正12年に出版された児童雑誌「金の鳥」3月号への発表が初出とされています。御風は、この「春よ来い」以外にも早稲田大学校歌や「カチューシャの唄」など、たくさんの作詞を手がけました。

1. 春よ来い 早く来い
 あるきはじめてた みいちゃんか
 赤い鼻緒の じょじょはいて
 おんもへ出たいと 待っている
2. 春よ来い 早く来い
 おうちのまえの 桃の木の
 蕾もみんな ふくらんで
 はよ咲きたいと 待っている



⑭ 夏の思い出

旧高田市(上越市)
【作詞者出生地】

♪作詞：江間 章子 (えましょうこ) ♪作曲：中田 喜直 (なかだよしなお)

作詞者の江間章子は大正2年(1913年)に旧高田市(現:上越市)に生まれた詩人です。少女時代を岩手県で過ごし、昭和11年(1936年)に詩集「春への招待」で詩壇に登場、以後詩作、訳詞、歌曲作詩など多彩な活動を展開しました。昭和24年(1949年)、NHKラジオで放送されたことで注目を集め、尾瀬が全国に知られるきっかけとなりました。

1. 夏がくれば 思い出す
 はるかな尾瀬 遠い空
 霧のなかに うかびくる
 やさしい影 野の小径
 水芭蕉の花が 咲いている
 夢見て咲いている 水のほとり
 石楠花色に たそがれる
 はるかな尾瀬 遠い空
2. 夏がくれば 思い出す
 はるかな尾瀬 野の旅よ
 花のなかに そよそよと
 ゆれゆれる 浮き島よ
 水芭蕉の花が 匂っている
 夢みて匂っている 水のほとり
 まなこつぶれば なつかしい
 はるかな尾瀬 遠い空



⑮ 鉄道唱歌 第四集北陸編

♪作詞：大和田 建樹 (おおわたたてき) ♪作曲：納所 辨次郎 (のうしよべんじろう)

鉄道唱歌とは鉄道沿線の駅名と風物を歌い込んだもので、地理教育を目的に、明治33年(1900年)に第一集「東海道編」が出版されました。続いて全国各地を歌う各編が刊行されました。もともと子どもの学習のために作られた曲でしたが、大人の間でも流行し、親しまれました。新潟県は第四集「北陸編」に登場しています。

31. 豊野と牟礼と柏原
 ゆけば田口は早越後
 軒まで雪の降りつむと
 ききし高田はここなれや
32. 雪にしるしの竿たてて
 道おしえしも此あたり
 ふぶきの中にうめらるる
 なやみはいかに冬の旅
33. 港にぎわう直江津に
 つきて見そむる海のかお
 山のみなれし目には又
 沖の白帆ぞ珍しき
34. 春日新田 犀潟を
 すくれば来る柿崎の
 しぶしぶ茶屋は親鸞の
 一夜宿りし跡と聞く
35. 鉢崎すぎて米山の
 くぐるトンネル七つ八つ
 いずれは広きわたの原
 佐渡の国までくまなし
36. みわたす空の青海川
 おりては汐もあみつべし
 石油のいずる柏崎
 これより海とわかれゆく